

平成28年度第2回前橋市公立大学法人評価委員会に係る意見提出様式

1 平成27年度業務実績に関する報告について

※年度計画の項目別評価に関する個別意見がある場合は別様式でお願いします

■全般的事項に関して

全般的に中期目標の達成に向けて真摯に取り組んでいる状況は評価できる。
⑥中期計画の中間点を折り返すに当たり、大学のレベル向上に必要な課題が見えてきたのではないかとと思われるので、重要項目を絞り込み、年度計画に落とし込むことも必要ではないかと思えます。（紛澤委員）

概ね年度計画に従って業務が進められており、自己評価についても妥当と判断しました。ただし、様式2に記載したように、①年度計画に対する実績の記述が具体的でなかったり、対応していなかったりする項目が散見されました。次年度の記載について検討いただけるとありがたいです。（後藤委員）

■業務の全体的な実施状況、特筆すべき成果に関して

⑦業務実績の中には、当年度の結果を受け次年度計画に改善すべき内容を盛り込んだ項目が幾つか見られるが、そのような改善項目を増やすことが重要と思われる。改善の成果が特筆すべき成果に結び付くのではないかと思えます。（紛澤委員）

②地域連携推進センターが中心的役割を果たし、公募型共同研究報告において、素晴らしい成果が確認できた。今後も期待するとともに、地域貢献や就職の実績を効果的に広報するとよいと思えます。また、④ベトナムのダナン工科大学との交流協定に際し、学生がワークショップに参加できたことも特筆すべき成果であり、その成果の発信を含め、今後の充実に期待したいと思えます。（後藤委員）

■大学の教育研究等の質の向上に関して

学部教育については、特にインターンシップの充実において改善が進んでおり、就職率は100%を達成しているため、高く評価できると思えます。その一方で、⑧6年間の教育プログラムの検討を始め、大学院教育に関する改善がやや遅れているように思われます。博士課程前・後期の入学者が増加しているからこそ、教育プログラムの改善が急がれると思えます。（後藤委員）

■業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善に関して

■自己点検・評価及び情報公開、その他業務運営に関して

2 平成27年度決算に関する報告について

3 利益処分の考え方について

余剰としての目的積立金について、効果的に利用できるように検討を進めていただきたいと思います。(後藤委員)

4 その他

中期目標に対する計画達成度ないし成果が数値化できない項目が多いため、客観的な評価がしにくい。大学が行う自己評価の内容が客観的に把握できず、評価委員会として正しい評価をすることは困難と思われる。

⑨計画の進捗度を評価するのか、改善の成果を評価するのが判断しやすいような業務実績の記述方法をさらに検討していただきたい。 (鮎澤委員)